

スポーツの力

～する・みる・ささえる～

スポーツクライミングをご存じですか？

皆さんはオリンピックやスポーツニュースで、今まで知らなかったスポーツを見かけることはありませんか。スケートボードやBMX、Breaking、3×3バスケットボールなど、今までにないスポーツに出会うとワクワクしてきます。スポーツクライミングもその1つです。

スポーツクライミングは2020東京オリンピックの追加種目として正式採用され、注目を集めています。登る速さを競う「スピード」、制限時間内にコースをどこまで登れるかを競う「リード」、制限時間内にコースをいくつ登れたかを競う「ボルダリング」の3種目があります。道具を使わず、自身の肉体1つで高い壁や、困難なコースに挑む姿には勇気をもたらせるのではないのでしょうか。

伊賀市でも、国内最大規模のスポーツクライミング施設であるDMG MORIアリーナで、3月にリードジャパンカップ2025が開催され、国内の有力選手が伊賀の地で腕を競いました。2028年ロサンゼルスオリンピックの正式競技に決定するなど、今後ますます注目のスポーツです。



【問い合わせ】 スポーツ振興課
☎ 22-9635 FAX 22-9694
✉ sports@city.iga.lg.jp

伊賀の歴史余話 40 墨塗り教科書

今年太平洋戦争の終戦から80年の節目の年にあたります。終戦によって、当時の日本社会は大きな価値観の転換を迫られました。そのひとつに教育があります。

学校では、終戦翌日の昭和20(1945)年8月16日に学徒動員が解除され、文部省から9月中旬の授業再開が指示されました。しかし、国防や戦意高揚を強調した戦前の教育内容や教材をそのまま使用することはできませんでした。同年12月には、連合国軍の指令により、軍国・国家主義的な思想の徹底的な排除を理由に修身・日本史・地理の3教科が授業停止となります。こうした価値観の大転換が如実に表れたのが墨塗り教科書での授業です。阿保町国民学校「沿革誌」には、教育全般二重り軍国主義的の一切ノ教材ヲ抹消スベク指令アリ、教科書特ニ国語教科書ノ教材ヲ抹消スルモノ多ク、墨デ塗りツブサレタ教科書ニヨル教育ヲ実施スルとその様子が記されています。

下段の写真は、当時の国語の教科書『よみかた四』です。国民学校では、第2学年の教材として使用されていました。黒く塗りつぶされた部分には「満洲の冬」と題された文章



文化財課歴史資料係
☎ FAX 41・2271

▲黒く塗りつぶされた教科書 (旧小田小学校本館保管)

が掲載されていました。満洲の美しい自然と、スケートで元気に遊ぶ子どもを牧歌的に表現した文章です。兵隊や軍艦をテーマとした文章とは異なり、一見すると戦意高揚とは関係のない文章に思えますが、戦中に日本が占領下に置いた満洲を題材とすることが許されなかったと考えられます。墨塗り教科書は、墨で塗りつぶすだけでなく、削除すべき部分を切り取ったり、貼り合わせたりすることもありました。そして、それらの作業は児童・生徒自身が行いました。子どもたちにとって、教科書を塗りつぶす作業は、終戦と価値観の大転換を実感させる出来事であったことでしょう。

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

セカンドオピニオン -上野総合市民病院 病院総務課-

主治医から説明された診断や治療方針について、「これで本当に大丈夫なのか?」「別の治療法はないのか?」など迷う場合もあると思います。「がん」など、命に関わるような病気の治療については、特に不安を感じる人が多いはず。そんなときに有用なのが、「セカンドオピニオン」です。

セカンドオピニオンは、患者さんが納得のいく治療法を選択することができるよう、病気の状況や治療方法などについて、現在診療を受けている主治医とは別に、他の医療機関の医師に「第2の意見」を聞くことです。主治医を替えたり、転院したり、他の病院で治療を受けたりすることだと誤解している人もいますが、そうではありません。

セカンドオピニオンを受けることで、病気や治療に対する理解を深め、より納得して治療を受けることができるようになります。また、別の治療法が提案された場合は、選択肢が増え、治療の幅が広がる

ことで、より納得のいく治療を自ら選択して臨むことができます。

セカンドオピニオンは患者さんの疑問や不安、悩みなどに応えて、決断を支援する仕組みの1つで、自分で納得して医療を受けていただくために認められている患者さんの権利です。主治医から説明された診断や治療方針などに不安や疑問を感じる場合は、セカンドオピニオンについて、主治医や病院の相談窓口などに相談し、自分らしく納得できる選択をしませんか。



■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp

IGAMONO セレクション No.60

純米大吟醸 しまがはら元頭 (火入れ)

「元頭」とは、島ヶ原地域に1300年続く祭事「修正会」において、練り込みの大餅飾りを献上する頭屋衆が、「エトー」と威勢のよい掛け声を発しながら、五穀豊穡と厄除の祈願に向かうときに始まった「春を呼ぶ」掛け声です。ご購入いただいた方の幸福を祈念し「元頭(エトー)」と命名しました。昼夜の寒暖差が大きな内陸性気候のもと、山々から湧き出る清水と豊かな土壌で育った「神の穂」の酒米から生まれたキレが良くスッキリ呑みやすいお酒です。ぜひご賞味ください。酒瓶のラベルデザインは、ふるさと島ヶ原の風景であり、島ヶ原在住の画家により描かれたものです。また、お酒は、榎大田酒造様のご協力を得て醸造しています。



一般社団法人 島ヶ原風おこし協議会 代表理事 島井 不二雄さん

当法人は、誰もが安心して住んでみとなるような地域・環境づくりを推進することを目的として、令和3年11月に設立した団体です。主な事業としては、島ヶ原の地域・環境づくりに関する事業や、酒米の栽培・地酒の販売を含め、地域振興を目的とした特産品の生産・加工・販売に関する事業、地域イベントへの参画(特に、毎年2月11日に開催される

観音寺正月堂の修正会での餅まき)などに取り組んでいます。酒米の栽培や地酒の販売については、過疎化・高齢化が進み自然豊かな田畑も様変わりしていく中、少しでもその環境を蘇らせ、地域振興に寄与したいとの思いで取り組んでいます。

【問い合わせ】 ☎ 070-8447-2556

■伊賀ブランド推進協議会事務局(商工労働課) ☎ 22-9669 FAX 22-9695